【グループ別協議（演習）：話題のプロセスを参考とした総合的な学習の時間における学習の流れを参考とした事例分析、単元における学習活動の改善・充実】

提案された学習の流れを参考に、対象事例について、学習の流れの①〜④が具体的にどの場面に当てはまるかを分析する。そして、単元の目標やねらいに基づき、学習活動の「どの場面」を「どのように」改善するか流れの①〜④を踏まえた学習活動となるのかを協議し、学習活動の見直しイメージと見直し方針について共有化を図る。

（進め方）

1. 単元計画を基に、その他の資料を参考にしつつ、総合的な学習の時間における学習の流れの①〜④のどの場面に当てはまるか、単元計画に番号を書き込み、分析する。
2. 対象事例の単元の目標やねらいを確認し、単元活動計画用紙（模擬紙）に記入する。
3. 対象事例の単元計画について、その他の資料を参考に「どの場面」を「どのように」改善するのか、付箋紙に記入する。
4. ③で記入した付箋紙を使い、学習場面を意識しながらKJ法を使って分類し整理する。その際、用意した作業用の紙（模擬紙）に貼り付け、類型化する。
5. ④で類型化したものを参考にして、単元活動計画用紙に改善された学習活動の流れを記入する。また、その学習活動を行う際の配慮事項を学習活動に追って記入する。
6. 協議結果を発表する。

【小学校】A小学校の実践事例

<table>
<thead>
<tr>
<th>単元計画（抜粋）</th>
<th>付箋紙（どのように改善するか）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 春の花に興味をもつ生徒が活動に集まっている。よって、教師の指導が必要な場面。</td>
<td>① 課題意識を高めるために、VTR等の活用ができると、驚きが生じる課題と。</td>
</tr>
<tr>
<td>2. 生徒が自由に活動を進める。ただし、指導者が必要な場面。</td>
<td>② 自分で調べること（課題）が班のテーマとかわっているかを確かにさせる場面がある。</td>
</tr>
<tr>
<td>3. 職業体験が活動に流れる。よって、教師の指導が必要な場面。</td>
<td>③ 「幼虫の発光するところを見つける」という思いを、個々に継続して持たせるには個々の手法を全体の課題とする場面が必要である。</td>
</tr>
<tr>
<td>4. 学生が教室外の活動を行っている。教室外の活動が有効に活用できる場面。</td>
<td>④ 一人一人の課題を班の課題にする際の手立てとして、見通しをもたせる場面を設定し、科学的な予想や検証の仕方を話し合う。</td>
</tr>
<tr>
<td>5. 学生が親子の活動を行っている。親子の活動が有効に活用できる場面。</td>
<td>⑤ 解決すべき問題に向け、その中で、自分たちでできるのは何か、問題を整理する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※ ①の学習場面ののみ抜粋
○ 協議結果の発表

（発表内容）

- 単元計画を基に、それぞれの学習活動が「発解のプロセス」を参考とした総合的な学習の時間の学習の流れの①〜④の場面に当てはまるかを考えると、

①→②→③→④→①→②→③→④→①

という流れになった。

1次から2次にかけての学習活動が小さい①→②→③であり、失敗を含むたくさんの経験（実験や観察など）を通じて、切実な課題設定ができるまで子どもたち一人一人の課題意識が高まっていく。

そして、そのような学習活動をうけて、次の①のところで明確な課題意識をもつことができ、課題追究への意欲も高まる。

そして、3次から4次にかけての学習活動では、①→②→③→④の流れが繰り返され、新たな課題が見出され、効果が明らかになっている。

この協議を通じて、単元計画は必ずしも①→②→③→④の流れではないことが確認された。また、本単元計画の流れは、小学校授業の総合的な学習の時間の学習として有効な流れではないかと考えた。

- 「発解のプロセス」を参考とした学習の流れのフィードバックを通じて、それぞれの学習活動のねらいや内容が明らかになり、学習活動の「どの場面」を「どのように」改善するかが明らかになった。そして、そのように学習活動を見直すことで、それぞれの学習活動における留意点も明確になっていった。